

高松市立栗林小学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

よく学び よく遊び よく働く 子どもを育てる

「確かな学力の定着」「健やかな心身の育成」「心の豊かさの実践」

【本校の現状と課題】

- 「新体力テストの数値分析の結果」より男女とも、多くの学年で20mシャトルラン、ソフトボール投げ、反復横跳びの記録が低く、県・全国平均を下回っている。
- 運動場では児童が楽しそうに体を動かす様子が見られるが、1000人以上の児童数に対して、運動場の面積は狭く、全員が一度に遊べる場所がない。
- 体育の授業では、体育館を4年生以下は2クラスずつ、運動場では3クラス合同で行う学年もある。同じ単元で授業を行うと、体育備品や消耗品が2倍以上必要になる。

【取組み】

遊ぶ場所の確保

- ・体育館や屋上や2階、3階テラスを開放して運動を行えるようにする。安全面の配慮として、教員が必ずつく、走らない、テラスや屋上での運動を縄跳び、長縄のみとする。
- ・運動場等での遊ぶ場所が明確になるように、各クラスに「栗っ子運動場の使い方」を配布し、教室に掲示するとともに、栗林スタンダードにも一緒に綴じ、職員にも周知する。

体力向上プロジェクト

- ・2, 3学期に、「体力作り月間」を設ける。2学期は11月にボール投げ、3学期は2月になわとびを行う。
- ・なわとびカードを配布することで、目標をもって取り組めるようにする。
- ・ボール投げでは、ボールに対する恐怖心を減らすために、柔らかいゴムボールを採用する。
- ・感染症対策で、密を避けるために、ペア学年で行う。

体育備品・クラス配当品の充実

- ・体育館や運動場だけではなく、屋上や中庭に鉄棒やジャンピングボードを置くなどし、体を動かせる環境を作る。
- ・業間休みと昼休みには、ボール倉庫を開放することで、運動場で児童が様々な運動に取り組めるようにする。
- ・柔らかいボール2つや長縄、マーカーコーンなどをクラスに配布し、いろいろな外遊びができるようにすることで、運動場に出て遊ぶ児童の割合を増加させる。

【目標】

- 新体力テストでは、男女とも20mシャトルラン、ソフトボール投げの記録を県平均以上にする。
- 体を動かすことの楽しさを味わい、習慣として運動する子どもを育成する。
- 学校評価における児童アンケートの運動に関する肯定的な意見の割合を、85%以上にする。